

額田おどり

《松づくし》

一本目には 池の松
二本目には 庭の松
三本目には 下り松
四本目には 志賀の松
五本目には 五葉の松
六つや昔の 高砂や
尾上の松や 曾根の松
七本目には 姫小松
八本目には 浜の松
九つ小松を 植え並べ
十で豊国 伊勢の松

《小夜の姫》

国は大和の 壺坂で
松良長者の 小夜の姫
昔は長者で 今は貧
四百四病の 病より

貧ほど辛い　　ことはない
親の菩提に　　当たれども
菩提弔およが　　ない故に
奈良の都へ　　身を売りに
古銭の大夫さんと　　言ふ人が
正金五十両と　　相定め
正金五十両で　　身を売りて
人身御供の　　くじを引く
人身御供に　　上げられて
人取柳の　　そのうえで
三階棚をば　　結いたてて
一の棚には　　足をかけ
二階棚には　　腰をかけ
三階棚には　　御酒御供
はるかに向こうを　　眺むれば
十丈もある様な　　大蛇めが
うるこをけたて　　齒をみがき
十二の角を　　振り立てて
真鍮色なる　　眼差しで
山吹色なる　　舌を出し
姫取ろうとの　　あの景色

やれ恐ろしや 小夜の姫
こら大蛇やい 大蛇やい

生ある物か 無き物か

生ないものなら 是非はない

生ある物なら 待ってくれ

私は薬師の 申し子で

法華経の五の巻 持っている

昼に三巻 夜二巻

これを唱えぬ 日はないに

いまだに今日は 唱えぬと

それ故悪魔が さしたのか

法華経の五の巻 取り出し

一卷文の 紐を解き

父の為よと 回向を入れ

二巻文の 紐を解き

母の為よと 回向入れ

三巻文の 紐を解き

薬師の為よと 回向入れ

四巻文の 紐を解き

我身の為よと 回向入れ

五巻文の 紐を解き

大蛇の為よと 回向入れ
五卷唱えた その書物
大蛇の面に 投げつける
そこで大蛇は 驚いて
十二の角は ばらばらと
うるこは木の葉の 散るごとく
色も変わりし 目の玉の
そこで大蛇の 物語
今迄取りたる 人の数
九百九十 九人取り
千人目には お前さん
お前さん取るとて わし取られ
お前さん何処と 尋ねたら
私は大和の 壺坂の
松良長者の 小夜姫じゃ
大蛇は何処と 尋ねたら
私は近江の 竹生島

※実際のおどりでは「大和の壺坂」↓
「丹波の額田」と替えて歌っているようである。